

「最も重要な戒め」

2022年04月29日

イエスはお答えになった。「第一の戒めは、これである。『聞け、イスラエルよ、私たちの神である主は、唯一の主である。心を尽くし、魂を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。第二の戒めはこれである。『隣人を自分のように愛しなさい。』この二つにまさる戒めはほかにない。』（マルコ福音書 12 章 29 節～31 節）

エルサレム神殿当局は、人を遣わして主イエスに論争を仕かけ、公衆の面前でやり込め、民衆の敬意と支持を取り去ろうとした。しかし、主イエスの鮮やかな返答により、その論争で、彼らは、ことごとく敗北し、退散せざるを得なかった。一人の律法学者が、主イエスの立派な答えを聞いて、感銘を受けたのであろうか、主イエスの前に進み出て、「あらゆる戒めのうちで、どれが第一でしょうか」と尋ねた。この問いは、主イエスを追い落とすための悪意あるものではなく、彼が日ごろから考えていた疑問を、見事な返答をする主イエスに聞いてみたいと思って、問うたのではないか。当時、律法体系は繁雑を極め、どの戒めが重要であるかが分からなくなっていたからである。マタイ福音書は「イエスを試そうとして尋ねた（マタイ 22:35）」とあるが、彼には敵対心はなく、謙虚な思いで問いかける若者のような誠実な対話がなされている。

主イエスは、「第一の戒めは、これである。『聞け、イスラエルよ、私たちの神である主は、唯一の主である。心を尽くし、魂を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』第二の戒めはこれである。『隣人を自分のように愛しなさい。』この二つにまさる戒めはほかにない」と答えられた。第一の戒めは、申命記 6 章 4 節～5 節「聞け、イスラエルよ。私たちの神、主は唯一の主である。心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くしてあなたの神、主を愛しなさい」からの言葉である。この言葉は、イスラエルの信仰の基本的な戒めで、礼拝の時はまず、この言葉が朗詠される。そして、生活の隅々に至るまで、この言葉を思い起こさせるようにしている。第二の戒めは、レビ記 19 章 18 節 c「隣人を自分のように愛しなさい」からの言葉である。主イエスは、繁雑な戒めを、神を全身全霊で愛すること、隣人を自分のように愛することの二つの戒めに要約された。律法学者は主イエスに、「先生、おっしゃるとおりです。『神は唯一である。ほかに神はない』と言われたのは、本当です。そして、『心を尽くし、知恵を尽くし、力を尽くして神を愛し、また隣人を自分のように愛する』ということは、どんな焼き尽くすいけにえや供え物より優れています」と応じた。彼は、ミカ書 6 章 6 節～8 節の言葉を念頭に置いて、主にまみえるために、この戒めの教えは、どんな献げ物よりも優れていると述べたのであろう。彼は日頃の疑問が主イエスによって、解決が得られたことを喜んだのではないか。

すると、主イエスは彼が適切な応答をしたので、「あなたは神の国から遠くない」と言われた。知識として知ることと、神の国に生きることは、別だよと諭しているように思える。主イエスと律法学者の会話を聞いて、神殿当局は律法問題では論破することはできないと、質問することを止めてしまった。

主イエスの神を全身全霊で愛することと、隣人を自分のように愛しなさいと、二つの戒めに要約した律法理解は、主イエスが表した福音そのものである。上なる神と結び合う。そして、神に「よし」とされた自分が、隣人を「よし」とし、結び合う。この縦と横が結び合う関係を作りあげることが、福音を生きるということである。